特集　森林（もり）と生きる

只見町は町の９割以上が山林に占められています。この豊かな森林資源を有効に利活用していく仕組みづくりが求められています。一方で、身近なブナ林が少ないというユネスコエコパークの課題もあります。町では今年４月に自然首都推進室を新設し、新たな林業施策を展開しています。今回は薪エネルギー事業の現状と事業を担う事業者や「林業」という仕事についても紹介します。

1 薪エネルギー事業

森林を育成するために
間伐した木材を薪に加工して
熱エネルギーとして利用する





スギ林での間伐と
木材の搬出





薪ステーションで
加工して保管





薪ボイラー棟で
熱エネルギーとして利用



只見町の森林
（深沢地区）



2 ぼくらのブナもり プロジェクト



小学生がブナを植樹・育成して身近なブナ林をつくる

詳細を「広報ただみ１２月号」に掲載予定です。



3 ぶなのもり こども園の新築



町産材を使った公共施設の建設を計画中

今後、詳細を「広報ただみ」に掲載予定です。

山で切られた木が薪になるまで——

只見町は「森林と生きる町」。町では、森林を育成するために間伐された木材を薪に加工し、温泉施設のお湯を温めるために活用しています。

令和6年度には荒島集落、令和7年度は只見牧野利用農業協同組合にご協力いただき、これまで十分に活用されてこなかった森林資源が、地域の熱エネルギーとして利用され始めています。ここでは、事業の流れと地元の方の声を紹介します。

1 候補地を選定・確認する



各集落で育成が必要な森林を調べ、間伐材の運び出し易さなども考慮して候補地を選び、実際に現地の森林を歩いて確認します。

2 所有者を調べる



候補地が決まったら、その範囲一帯をまとめて間伐できるように、森林の所有者を確認します。所有者不明や未相続の土地は間伐できないため除外します。

3 集落に説明する



間伐する森林とその所有者を調べたら、地元集落で事業説明会を開きます。どのように間伐するか、運び出した木から得られる収益をどのように還元するかなどを説明します。

荒島集落

星 庄允（しょういん）さん

集落の各戸がスギ林を持っている。自分の家の分は自らの手で刈り払いをして管理していたな。自分はスギの苗木を背負って山を歩いた世代。いまはスギの木が売れないし、貰ってもらえない時代だから、わざわざ刈り払いしないよな。

町で道路沿いのスギを伐ってもらって良かったな。若い世代は木に未練はないと思う。自分は親の世代から植えて管理してきたから「あ～燃やしてしまう……」という気持ちもある。けれど、荒島はすぐにまとまる集落だから、町の説明を聞いて、今回もまとまったな。

同じ面積でも伐る本数にバラツキがあって、そこはよく町と事業者と集落で協議、相談してもらってやってほしいと感じたな。それから、一番よいのは何年かに一度、道路から数メートルを伐ってもらうこと。山の見通しが良くなって、獣害対策にもなってくるかな。



荒島集落での伐採

5 木を伐採する



担当する事業者が経営計画に基づき、間伐を行います。薪にする木だけを抜き切りし、残した後継樹が健全に育つようにします。

4 森林整備の計画を立てる



所有者の同意が得られたら、森林を育てるために５年単位での経営計画を立てます。また、国・県の補助を活用するための手続きを進めます。

7 薪を乾燥させ、温泉施設で使う



加工した薪は、一定期間乾燥させた後、湯ら里・むら湯の薪ボイラー棟に運ばれ、給湯や浴槽の加温のための燃料として利用されます。

6 森林から薪ステーションへ



間伐した木をまとめ、杉沢にある薪ステーションに運びます。ここでは自動薪割り機によって薪にします。

只見牧野利用農業協同組合
藤田 善蔵（ぜんぞう）さん

昭和26年2月に組合を父ぐらいの世代が設立したんだ。父に付いていってよく山に登ったな。小学3、4年生のときにハルキヤマ（春木山）で、直径1メートルものブナの木をノコギリで挽いて、山で伐った木を載せてソリ乗りしたのは、同級生で自分くらいだったな。中学生のときにはスギ植えした記憶だ。

15年くらい前、退職して森林組合の手伝いで若い人らと山に入った。大槌山（おおつちやま）はあらかた歩いたもんだ。林業の仕事を嫌がらないように、仕事を続けてもらえるようにと教えたつもりだ。山に行くと気持ちがいいんだよな。

組合は作業できる人が減っていってますます難しくなるわ。大槌山を間伐したいと町から話があって、自分たちでは作業ができないから、誰も文句は言わなかったな。いまはスギの木が売れないから、薪エネルギー事業でやってもらって良かったと思うよ。



▶大槌山での伐採

森を育て、恵みを循環させるには 山と木に向き合うことから

現在、薪エネルギー事業は只見町森林組合が山での伐採、薪ステーションの管理・運営を担っています。事業に携わる皆さんにお話を伺いました。



只見町森林組合
代表理事組合長
山内 清示（せいじ）さん

山に手を加える

間伐は大きくなる木を残していく作業です。残した木が育つことで、山の保水力が向上し、洪水の緩和など防災にもつながります。

来年は、梁取集落の山林でブナの間伐を行う予定です。ブナは薪だけでなく、家具材としての活用も考えています。スギに加え、広葉樹林でも間伐を行い、あわせて植樹を行うことで針広混交林化を進めていきます。

間伐材を薪ステーションで加工

ナラも火力があって火持ちもいいので薪として取り扱っていますが、ナラ枯れの影響で数が足りません。他の材を集めて薪づくりを進めている状況です。

また、薪が乾きにくいことも課題です。乾燥させないと一定の水分量以下にしないと薪として使えないので、薪ステーションで束ねた薪が雨に濡れないよう試行錯誤を重ねています。

薪は個人向けにも用意しています。薪は欲しいけれど、自分で山に行って切るまでは難しい方にこそ利用してもらいたいです。また、薪にできる支障木の買い上げもしています。ぜひ薪ステーションをご利用ください。

1_間伐した木を自動薪割り機で薪にします。薪は重機で運び出し、束にして乾燥させます
2_薪の束を深沢の薪ボイラー棟に運びます。軽トラックからクレーンで吊るして保管用のラックに入れます





2　1

コラム

林業の現場から



只見町森林組合 参事

五十嵐（みきや） 幹哉さん

木をどう使うか

将来どのような山にしていくかを考えながら、どのような木を切って活用していくかが大切です。いまの山には伐期を過ぎた木が多いです。あまりにも太い木は需要がないのが現状です。適切な育ち具合の木も、切ったところで材価や経費の問題があり使い道がなかなかないのです。昔は木を植え育て家を建てようなど目的があって植えていました。ですが、今はせっかく植えた木でも使う目的がなくなっているので、利活用のひとつとして薪にしています。

山に目線を向けて

今は山をどのように維持していくかという段階。これ以上、山の環境が悪くならないように、いかに健全な山にするかが求められています。木を全て切って（皆伐）、再造林して育ててまた皆伐のサイクルが望ましいですが、コストなど難しい面もあります。課題は山積みですが、山の荒廃は進んでいきますから何かをしていかないと。薪にしたりブナを植えたり、様々な取り組みをしていくなかで、よりよい山の利活用を考えていけたらと思います。



4



3

3_チェーンソーで木を安全に、狙い通りの方向へ倒します。そのために2つの切り込みを入れます。写真は最初の切り込み「受け口」を入れている様子　4_倒した木は一定の長さで玉切りにします。雪の上など下が不安定な場所では、作業しやすいように木を重機で押さえます



只見町森林組合 作業員

馬場（あつし） 純さん

誘われて林業へ

同級生の三瓶晃（あきら）さんに誘われて、やってみようかなと思い森林組合に入りました。初めの仕事は細木などの刈り払い（除伐）をしたり苗を植えたり。その後、講習を受けてチェーンソーを扱えるようになりました。常に安全面に気を付けて、お互いに声掛けして作業しています。林業はきついイメージがあり、実際体力仕事で大変な面はありますが、働いている仲間が同世代の方が多く、みんな知っている人たちだったのでやりやすさを感じています。